

平成26年度第9回旭市道の駅建設準備委員会 会議録

日 時：平成26年12月22日（月）午後3時30分

場 所：市役所3階委員会室

事務局：企画政策課

外部アドバイザー：(株)船井総合研究所

1. 開会

欠席（土屋委員）報告

2. あいさつ

委員長：大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

皆様のご協力でここまで進んでまいりました。11月には起工式も実施されました。来年のオープンに向けて順調に進むことを期待します。

先日には、出荷者協議会も設立され、いよいよ実際に稼動するような状態になってきています。今後とも皆様の力を借りながらどこにもないような道の駅にしたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

市長：年末の大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

現在の道の駅建設の進捗状況ですが、造成工事については、概ね完了しまして、12月10日に建築基礎の工事がはじまりました。以後、機械、電気、厨房設備と随時、作業に入りまして、来年7月末の完成を目指します。

さて、道の駅のネーミングですが、市内から633件の応募があったそうです。それだけ道の駅に関する期待が大きいと感じます。国では地方創生、旭市では国土強靱化の政策もあり、地域活性化については国全体で考えてもらっているところであります。地方の起爆剤となれるような素晴らしい道の駅を建てたいと改めて感じております。

本日はネーミングの選定方法の説明がありますが、ネーミングは、旭の道の駅のイメージを与えられる重要な要素であり、親しみやすく覚えやすいものであれば、印象に残りやすく、また、消費者や来訪者の間に広く浸透させることができます。

今、国においては「まち、ひと、しごと創生法」が施行され、地方自治体において、人口減少対策としての地方人口ビジョンや地方版総合戦略を策定し、自ら活力ある魅力に満ちたまちづくりを計画的に実施することになり、道の駅はこれらからしても、また、地域産業の振興を考えた上でも良い施設であると思います。

今年最後の建設準備委員会となりますが、是非、皆様のご協力をいただき、旭の特徴を活かした道の駅になるようよろしくお願いいたします。

3. 議題【道の駅運営に向けた検討項目】

（1）発起人会の経過報告について

※事務局、アドバイザーより説明

→定款案の策定状況、会社の組織図及び取締役案について、今後の検討事項について各委員からの意見

委員：来年度からの組織体制について、取締役会の位置づけはどのようになるのか。

アドバイザー：取締役会については第3セクターの部分に含まれ、検討事項を決定する機関として位置づけられる。

市長：現在のそれぞれの組織についても、役割を明確化すべきである。

委員：準備委員会の役割は用地の選定や建物について、或いはテナントや名称の選定くらいまでであって、4月以降は会社も設立され駅長も正式に決定する。また、出荷者協議会もすでに設立されている。それらが主になって準備を進めていくと思う。準備委員会はオープンまで継続されるとのことだが、これから先どのような協議があるのか。会社と両立しているのは良くないのではないか。

アドバイザー：本来であれば運営に係る部分については発起人会で協議させるのが理想だが、現況は準備委員会でも重複して議論してもらっている。組織が立ち上がってすぐにすべてを移行できるものではなく、お互い足りない部分を補いながら徐々に移行していかなければ難しい。片方をなくしてしまうと、もう片方で議論が上手くいかなかった時にセーフティネットがなくなってしまうので組織の二本立ては必要なものだと考える。今後は会社が設立されると、発起人会と発起人会専門部会はなくなるので、その後の経営の部分を実務局が事務局となって進めるといった趣旨である。準備委員会については、工事等の進捗状況の確認やユーズークラブの設立等を進めていくことになる。

事務局：次回の委員会ではそれぞれの組織の役割、今後のスケジュール等を示したい。

（２）販売計画等について

※事務局、アドバイザーより説明

・出荷者協議会について

→現在、農畜水産物出荷者が138名、加工物産品出荷者が96名、実質申込者は214名である。出荷者協議会の6つの専門部会及び設立総会を開催し、それぞれの部会役員と協議会役員が選任された。

・販売計画について

→売上計画について、1品目あたりの想定出荷金額を設定し分析すると、野菜類では現在おおよそ70パーセントの需要に対応可能と考えられ、きのこ類に関しては出荷者が足りていない。また、果物類では梨、スイカ、柑橘類等で出荷者が足りていない。

各委員からの意見

委員：出荷者協議会が立ち上げられ役員も決定した。せっかく協議会が設立されたので売場の什器の検討等の協議を積極的にしていきたい。また、出荷者協議会の役員と建設準備委員会等の意見交換等を実施してはどうか。

事務局：出荷者協議会では今後、品目の調整や販売什器について協議をしていきたい。

アドバイザー：例えば出荷者協議会の役員を建設準備委員会にオブザーバーとして招くのも良いと思う。また、準備委員会での決定事項を報告する場があると良い。

市長：いずれにしても、意見交換の場は多い方が良い。みんなで盛上げていきたい。出荷者の気持ちは出来る範囲で反映させるべきである。

委員長：来年は生産者との意見交換を頻繁に実施してもらいたい。

委員：協議会の専門部会については、事務局を商工観光課と農水産課で担当している。商工観光課では部会で勉強会等を開催する準備をしている。会員を通じて、更なる出荷

者の増加も図りたい。

委員：農水産課では現在、部会で何をやればいいのかを話合っている。何かテーマを持って部会を開催したい。

市長：他の直売所等の視察研修も良いのではないかな。野菜の並べ方等の勉強になる。

委員：出荷者説明会では様々な質問があったが、それらをどう解決するかも勉強の項目としてもらいたい。例えば出荷集配システムについてや、農薬の使用に関する栽培履歴をテーマにした勉強会もできると思う。

委員長：専門部会の人数が多い部会ほど、連絡調整をしっかりとやらないと末端の方まで届かない。特に農産物部会については、農水産課で来年早々の対応をお願いしたい。

※事務局、アドバイザーより説明

・テナント関係の報告について

→テナントの応募について締め切った。今後、テナントの選定を実施する。

(3) ネーミングの選考について

※事務局より説明

・選考方法等の詳細説明

各委員からの意見

委員：ひらがなで「あさひ」は無効になるのか。

事務局：ひらがなの「あさひ」は既に道の駅としての登録がされているので旭市では使えない。漢字であったり、「あさひ」の前後に何か付いていれば大丈夫である。また、名称の頭には必ず「道の駅」が付く。

(4) その他について

※事務局より説明

・太陽光発電設備について説明

→太陽光発電設備についてこれまで準備委員会で意見を頂いてきた。設備整備については、売電価格と建築費でどうしても価格の差が出てしまっている。市長も含め庁内で協議した結果、12月の議会では太陽光発電設備整備はしない方向で報告をした。今後、売電価格の値上がり等の情勢の変化があれば、第3セクターで検討していくこととした。

・1月建設準備委員会開催についてのお知らせ

→平成27年1月22日（木）午後3時30分 旭市役所3階委員会室

閉会 17:20